



あけましておめでとうございます

理事長 吉田直己

昨年中は、あかねの会の活動に温かいご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。
2025年は、超高齢化・少子化や物価上昇、災害への不安など、社会の変化を身近に感じる一年でした。
障害福祉の現場でも人手不足など、決して楽ではない状況が続いています。
正直に言えば、「どう続けていくか」を考える場面も増えました。そんな中で改めて感じたのは、制度やサービスだけでは支えきれないことがたくさんある、ということです。

利用者のご両親の高齢化により、これまで当たり前になり立っていた生活が、少しずつ難しくなっているご家庭が増えています。ご本人が親の延命措置について判断を求められたり、医療や介護の説明が十分に理解できず途方に暮れたり、親御さんが認知症になり、ご自身が管理していた通帳の保



光が丘地区祭で高齢・保育・障害の垣根を越えて、複数の法人で一緒に出店しました



練馬城址公園で木柵をペイントし、公園がカラフルになりました

管場所が分からなくなってしまったケースもありました。ご近所の方が心配して声をかけてくださる場面もあり、地域のつながりの大切さを改めて感じています。私たちもできる限り寄り添い支援を行っていますが、常にそばにいられるわけではありません。だからこそ、日頃からの「顔の見える関係」を大切に、万が一の災害時にも助け合える関係づくりを進めてほしいと思います。法人としても地域行事への参加や他法人との繋がりを大切にしていきます。

あかねの会が大切にしている「人生の同行者」という言葉は、理念ではなく日々の行動の指針です。答えを押し付けるのではなく、その人が自分で選び、進んでいくそばに居続けること。それが私たちの支援です。2026年も、利用者・ご家族・地域の皆さんと共に悩み、考え、歩んでまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

各部だより

生活支援部

地域連携推進会議を開催しました

グループホームでは10月24日に「練馬中央」事業所（われもこうビル）、11月21日に「練馬西」事業所（第六さつき寮）の第一回目の地域連携推進会議を開催しました。グループホームと地域をつなぐ目的で今年度から実施することになりました。

地域住民代表、福祉に知見のある方、利用者、家族、行政の方に参加して頂き、あかねの会からは吉田直己理事長他、生活支援部関係者が出席しました。

「障がいに対する理解」という議題では、吉田支援アドバイザーが、グループホームでの障がい者支援について具体例を交えて話をしました。日頃、外からではわからないグループホームの生活について、具体的なイメージを持って頂くことができたと思います。後半はグループホームの普段の様子を撮った動画を上映し、意見交換をしました。その後、寮に移動し内部の見学をして頂きました。

今回は第一回目ということもあり、当会からの説明や提案が主体となりましたが、参加者からは「楽しそうに生活している様子がよくわかりました」というお声も頂きました。

グループホームは施設の性質上閉鎖的になりがちな施設なので、今後も地域に対して積極的に発信していきたいと思っています。